

暴力一掃の取り組み強化に関する申し入れ 民間会社社長宅への発砲、一般ごみ収集車の炎上について

4月19日午後8時半頃、飯塚市潤野の民間会社の社長宅に発砲する事件が発生した。犯人が逃走に使用したと見られる乗用車は、津原の八木山バイパス高架付近で炎上して発見された。また、20日午前零時過ぎには、明星寺の車庫にとめてあった一般ごみ収集車3台のうち2台が炎上した。民間会社は本市指名業者（土木）の（株）坂平産業であり、一般ごみ収集車の所有者は委託業者の（有）イブキアメニティサービスである。現在、県警がそれぞれに関連がないかも含めて捜査を進めている。

現場はいずれも住宅地であり、住民からは、「パン、パンと続く音を聞いて恐ろしかった」「子どもが通るところ。とんでもない事件だ」と、不安や怒りが広がっている。

今回の発砲事件の背景の一つに、拳銃が市民の身近なところに存在していることがある。警視庁は、暴力団が大量のけん銃等を組織的に調達、管理している実態がみられると指摘しているが、拳銃の押収件数は年々減少し10年間で3分の1に減っており、暴力団と拳銃の取締りの強化が急務である。また、公共工事、業務委託について、暴力団の排除はもちろん、清潔と透明性の確保の重要性も指摘されるところである。

本市は昨年10月、暴力追放・生活安全住民総決起大会において『暴力追放都市宣言』を採択し、「暴力のない、明るく住みよい地域社会の実現は、市民共通の切なる願いです。社会秩序を乱し、平穏な日常生活に不安と脅威を与える暴力行為は断じて許すことはできません」と、決意を表明したばかりである。わが党は、今こそ、市民とともに暴力追放に全力をあげる決意を明らかにするとともに、貴職がその責任を全力で果たされるよう下記のとおり申し入れるものである。

記

- 一、暴力追放の決意を改めて表明すること。
- 一、子どもをはじめ住民の安全確保に万全を尽くすこと。
- 一、事件の厳正捜査を関係機関に申し入れるとともに、市として調査を行うこと。
- 一、暴力追放・生活安全住民総決起大会を臨時に開催すること。
- 一、暴力団と銃器の取締りの強化を関係機関に申し入れること。

以上

発砲・炎上

民間会社社長宅 一般ごみ収集車

暴力追放！ 取り組み強化へ

日本共産党
飯塚市議団

5項目を申し入れ

古本議長は、「暴力追放は、市民全体の思いだ。議会決議など役割を果たしたい」と、決意を語りました。齊藤市長に代わって応じた野見山智彦総務部長は、安全対策の取り組みを紹介、「市長に伝える」とのべました。

来月9日には、暴力追放・生活安全推進住民会議総会も行われます。暴力追放への市民の決意をきっぱり示すときではないでしょうか。

申し入れは、ゆいかんじ市議、川上直喜市議が行い、宮嶋つや子党くらし相談室長が同行しました。



心から、ゆいかんじ市議、川上直喜市議、左から山本俊光議長、松本友子副議長、つや子相談室長

民間会社社長宅への発砲（19日午後8時半ごろ）と一般ごみ収集車の炎上（20日午前零時過ぎ）の2つの事件に関して、日本共産党飯塚市議団は4月22日午後、暴力一掃の取り組み強化を求める申し入れを、古本俊克議長と齊藤守史市長に行いました。